進め！うちなー調査隊

県内の気になるコト・モノを知れば沖縄がもっと面白くなる！

いざという時に身を守る災害に強くなるために必要なことは？

大地震や津波、大雨による土砂崩れなど、災害はいつ起こるか分かりません。命や財産を守るためにも、日頃から災害に備えることが大切。毎年9月は防災月間。この機会に、防災について考えてみましょう。

まずは〝意識する〟ことが防災への第一歩

災害への備えはできていますか？「沖縄は地震が少ない」と思われがちですが、2022年に沖縄で震度1以上の地震が観測された回数は153回。都道府県別では9番目に多い数字です。県が2013年度に実施した地震被害想定調査によると、本島南東沖の3か所を震源とする地震が連動して起きた場合、地震の規模を示すマグニチュードは最大9・0になると予測しています。

海に囲まれた沖縄では、大規模災害の発生時に空港や港湾が被災すると、緊急物資や資機材輸送、救助活動のための人材輸送に遅れが生じる可能性があります。そのため、県では最低7日分の食料や飲料水といった生活必需品の備蓄を推奨しているほか、避難する場所や手段を確かめておくよう周知しています。台風対策だけではなく、地震や津波などの災害に備えて、普段から防災について意識することも大事です。

地域住民が協力し助け合う「共助」が大切

災害発生時、地域や近隣に住む人たちと協力し合い、助け合うことを「共助」といいます。もし被災した場合、行政の支援を待ち続けるよりも、「自分の身は自分で守る」という「自助」や、「自分たちの地域は自分たちで守る」という「共助」を考えた方が被害を最小限に食い止める近道になります。

自治会などが主体となり、地域防災を支える組織を「自主防災組織」といいます。防災士の資格を持つリーダーを中心に、平時にはその地域に特化した情報を集め、独自に防災マップを作成したり、防災訓練を実施。災害時には被害状況や避難状況を伝え、初期消火や救出作業など、命を守るためのさまざまな活動を行います。

災害に備えた県の取組

県では、災害被害を最小限に抑えられるよう、消防や警察など関係機関と連携し、地震発生直後からの活動を想定した訓練（住民避難訓練や傷病者の救出・救護訓練など）を実施しています。それでも、災害発生時には行政や防災関係機関による支援が充分に行き届かない場合も想定されます。だからこそ、県民一人一人による、日頃からの災害への備えや心構えが大切です。

楽しく学ぶ！証言を基に開発した防災体験プログラム

（写真提供:NPO法人地域サポートわかさ）

CASE 1

［防災］ NPO法人地域サポートわかさ

https://cs-wakasa.com/ryc/

ホームページ

ゲーム感覚で防災を知る リッカ！ヤールーキャラバン！

NPO法人地域サポートわかさが2016年から始めた防災イベント。阪神淡路大震災の教訓や知恵を伝えるために誕生した防災イベントをアレンジ。「消火」「救出」「備え」をテーマにしたプログラムをゲーム形式に仕立てていて、ゲームに参加するとポイントがもらえ、おもちゃと交換できるなど、子どもたちも楽しみながら防災知識を学べる。

プログラム内容を一部ご紹介！

ヤールー体操

バケツリレーや落下物から頭を守る動きなどを組み込んだ準備体操。

ジャッキアップゲーム

テーブルの下敷きになったヤールー（ヤモリ）の人形をジャッキアップを使って救出する。

毛布で担架トライアル

毛布を使って担架を作り、怪我人に模したヤールー人形を運ぶ時間を競う。

開催するには どうしたらいいの？

NPO法人地域サポートわかさでは、研修会の開催や資機材を貸し出すなど、リッカ！ヤールーキャラバン！開催に向けたお手伝いをしているよ。各地に防災の輪が広がっていくといいね！

災害時に地域を支えるさまざまな取組

CASE 3

［自治会］ 糸満市・西崎ニュータウン自治会

独自の取組を通して地域の安全は地域で守る！

（写真提供:糸満市）

住民の手で、防災に強いまちづくりを実現

海抜3.2メートルと低く、多くの高齢者が暮らす糸満市の西崎ニュータウンでは、自治会が中心となって2008年に自主防災組織を結成。住民がすぐに避難できるように民間アパートを一時避難場所として活用するため、管理する不動産業者と協定を結ぶなど、自主的な防災活動を続けている。年2回の防災訓練では住民に興味を持ってもらえるように、ドラム缶風呂やペット同伴の訓練など内容を工夫していて、200人以上の地域住民が参加している。

CASE 2

［ラジオ］ FMよみたん

http://www.fmyomitan.co.jp/

ホームページ

災害情報はここから！地域防災を支える大黒柱

ラジオを通して地域とつながるコミュニティ放送局

台風や地震などの発生時に、地域にとって必要不可欠な情報を即応して届けるコミュニティラジオ。2008年に開局したFMよみたんでは、台風時に番組スケジュールを災害放送に切り替え、役場や警察、消防、気象庁、停電情報のほか、生活に必要な給油所や店舗の開店情報などを伝え、災害時に必要な情報を放送する。東日本大震災を機に始まった防災情報番組「災害時は786」は防災士がパーソナリティを務め、自助・共助・公助など防災に備えた内容を放送している。

進め！うちなー調査隊 まとめ

地震や津波など突然起こる災害は、日頃の防災活動で乗り越えよう！

- ☑ 食料品の備蓄や防災訓練に参加するなど、普段から防災意識を持つことが大切。
- ☑ 住民同士で声を掛け合い、地域のつながりを深めていくことが「共助」につながる。

9月18日は しまくとぅばの日 広げよう！しまくとぅば県民運動